

令和6年度日本小児外科学会
第4回定例理事会議事録

日 時：令和7年1月28日（火）11：00～16：30

会 場：日本橋ライフサイエンスビルディング LSB-B103 会議室

出席者：小野 滋（理事長）、家入里志（副理事長）、浮山越史（理事・会長）、石橋広樹、
尾花和子、加治 建、田中秀明、平林 健、淵本康史、米田光宏（以上理事）、
奥山宏臣（監事）、照井慶太（庶務委員長）、田中奈々（庶務委員長）、渡邊佳子（会
長付庶務委員）、上原秀一郎（財務会計委員長）、山田洋平（財務会計副委員長）、
柴田晶子（以上事務局）

出席者（WEB）：

内田広夫（理事・次期会長）、越永従道（監事）、田尻達郎（前会長）、
田中 潔（第40回秋季シンポジウム会長）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム
会長）、松浦俊治（前会長付庶務委員・専門医認定委員会委員長）、文野誠久（施設
認定委員会委員長）、石丸哲也（専門制度庶務委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第4回定例理事会の議事録署名人は、米田光宏理事・加治建理事とした。
2. 令和6年度第3回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第62回学術集会について（浮山会長）

浮山会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・第5次会告について報告された。

会 期：2025年6月5日（木）～6月7日（土）

会 場：一橋大学一橋講堂

主 題：天に星、地に花、人に愛～きみの想いを子どもたちのために～

学会HP：<http://jsps62.umin.jp/>

演題募集期間：2024年10月16日（木）から12月12日（木）

開催形式：現地開催（第一会場のみオンデマンドとする予定）

- ・演題登録は上級・一般演題併せて547題、海外からの登録が53題、合計600題であることが報告された。
- ・タイムテーブルについて報告された。
- ・会員より、単位の取れる専門医機構の講習開催希望が寄せられたことを踏まえて、日本専門医機構共通講習プログラムを一つ、日本専門医機構外科領域講習プログラムを3つ開催することが報告された。
- ・トラベルグラントについてアメリカ、スウェーデン、ラオス、インドネシア、インド、香港、チリなどから応募があったことが報告された。なるべく色々な国から参加していた

だくべく、厳正な審査を行い、10名を選出したことが報告された。

2) 第63回学術集会について（内田次期会長）

内田次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

会 期：2026年5月21日(木)～5月23 日(土)

会 場：ウインク愛知

主 題：Bright Future for Children

輝く未来へ 小児外科の技術を磨く

同時開催：・ WOFAPS regional meeting

・ MIS workshop (fee required) （会場：名古屋大学医学部附属病院）

2026 年 5 月 19 日（火）

- ・ WOFAPS regional meeting が正式に決定したと併せて、重鎮の先生方に色々な講義をしてもらう予定であることが報告された。
- ・ AAPS（アジア小児外科学会）と合同開催となることを踏まえて、5 月 19 日に MIS workshop を開催することが報告された。
- ・ 拡大評議員懇親会、全員懇親会のいずれも AAPS（アジア小児外科学会）と合同開催であることが報告された。会費については 2016 年に田口 智章先生が会長を務められた第 53 回日本小児外科学会学術集会（JSPS2016）/第 24 回アジア小児外科学会（AAPS2016）を参考にすることになった。
- ・ 共通講習は「小児救急」とすることが確認された。
- ・ 第 63 回学術集会のポスター案が提示された。

3) 第 40 回秋季シンポジウムについて（田中潔秋季シンポジウム前会長）

田中秋季シンポジウム会長より資料に基づき開催報告がなされた。

- ・ 現地開催＋ライブ配信で、コストパフォーマンスを考慮し、会場内に WiFi は設置しなかったことが報告された。
- ・ 発表演題は口演 46 題、ポスター 23 題で合計 69 題だったことが報告された。
- ・ ウェブ登録は 648 名で、医師 575 名、医師以外 25 名 初期研修医 16 名、医学部学生 32 名だった。その他、現地登録 1 名、名誉会員・特別会員 7 名で参加者数は 656 名だったことが報告された。参加登録者の中で「現地参加」としても、3 日間すべて現地参加ではなく Web 視聴の日もあったことが報告された。
- ・ 通常の秋季シンポジウムは各分野のオーソリティが報告発表するという形式だが、今回は若手小児外科医の応募が多く、積極的に若手を座長や講演演者としたことが報告された。
- ・ シンポジウムという形式にとらわれずに、会場からの意見も含めたディスカッションを重視する形としたことが報告された。
- ・ 会計は PSJM2024 と合同で、3:3:1:1:1 の按分となっていることが報告された。約 240 万円の黒字会計となる見込みであることが報告された。
- ・ 日本小児外科学会名誉会員・特別会員は参加費を無料としたことが報告された。

- ・2024/10/25 20:00 ～10/26 17:00 にかけて、第40回秋季シンポジウムのHPを開設していた UMIN の全サービスが停止することになったため、事前に秋季シンポジウム/PSJM HP トップページにサービス停止予定を記載したほか、日本小児外科学会員に mail 配信、日本小児外科学会 HP 「学会員へのお知らせ」を掲載するなどして周知に努めたことが報告された。各研究会は UMIN が停止する前に終了していたので混乱は見受けられなかったが、小児外科学会員以外の参加者への周知が十分だったとは言い難いため、UMIN 停止に伴う不具合等の報告が寄せられた場合は、田中会長に報告するよう呼びかけられた。

日時：令和 6 年 10 月 26 日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：少子化時代における小児外科医育成

開催形式：現地開催＋ライブ配信 全会場（発表者・座長は現地）

4) 第41回秋季シンポジウムについて（大植秋季シンポジウム会長）

大植会長より口頭で進捗状況が報告され、承認された。

- ・第41回秋季シンポジウム/PSJM2025 のポスターが提示された。
- ・現地開催のみの予定だったが、オンデマンドやライブ配信も検討していることが報告された。ライブ配信にした場合、オンデマンドより 50~60 万円程高くなる見込みであることが報告された。

日時：令和 7 年 11 月 1 日（土）

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

5) 第42回秋季シンポジウムについて（渚本次期秋季シンポジウム会長）

渚本次期秋季シンポジウム会長より、口頭で準備状況が報告された。

- ・AI やナビゲーションなどに精通した先生に講演を依頼することを検討中であることが報告された。

日時：令和 8 年 10 月 31 日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：小児外科領域における最新技術の応用

6) 第43回秋季シンポジウムについて（加治次々期秋季シンポジウム会長）

加治次々期秋季シンポジウム会長より、口頭で準備状況が報告された。

- ・PSJM 会長の先生方のスケジュール確認等、調整中であることが報告された。
- ・現時点では、会場は久留米シティプラザ、2027 年 10 月 20 日に理事会、10 月 21・22 日に PSJM、10 月 23 日に秋季シンポジウム開催というスケジュールで検討していることが報告された。

日時：令和 9 年 10 月 23 日（土）

会場：久留米シティプラザ

テーマ：食道閉鎖症 Update

7) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会（照井委員長）

照井委員長より、資料に基づき報告された。

2024 年 12 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,645 名（うち海外 2 名）、評議員 279 名、準会員 28 名、名誉会員 57 名（うち海外 8 名）、特別会員 65 名（うち海外 1 名）、賛助会員 1 団体の合計 2,074 名+1 団体である。

- ・名誉会員の角田昭夫先生、特別会員の松村長生先生が逝去されたことが報告され、追悼文の掲載について審議された。機関誌委員会を通じて、角田昭夫先生の追悼文は新開真人先生、松村長生先生の追悼文は大塩猛人先生に依頼することになった。

(2) 財務会計委員会（上原委員長）

上原委員長より、資料に基づき報告された。

- ・1 月 4 日に開催された財務会計委員会で、中間決算を確認したことが報告された。社団の収支は問題がなかったことと併せて、NPO の財産は順当に枯渇したことが報告された。
- ・定期学術集会、秋季シンポジウムの開催援助金について、昨今の社会事情、特に製薬会社等の企業による協賛金減少などから会長の負担が増加していることを踏まえ、定期学術集会開催援助金を 800 万円、秋季シンポジウム開催援助金 200 万円に増額することについて審議が求められた。援助金はトラベルグラント、理事会を含めた関連会議、リサーチグラントなどを含めた金額とし、社員総会で審議・承認を得ることが承認された。
- ・定期学術集会、秋季シンポジウムで利用している抄録アプリの契約書について確認が求められ、5 年ごとに契約の見直しを行う形にすることが承認された。

(3) 専門医制度委員会（専門医制度各委員長）

文野施設認定委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2024 年 12 月 3 日に開催された日本外科学会外科サブスペ領域連絡協議会について報告された。2026 年に初回更新を迎える新制度認定者の更新手続きに合わせて、旧制度専門医は、更新時期に学会認定専門医か機構認定専門医へ移行するか選択可能となることが報告された。サブスペ専門医の移行について報告された。第 62 回学術集会で 30-40 分ほどの専門医制度委員会からの報告会を開催することになった。
- ・会員から、機構認定外科専門医更新における領域講習について問い合わせがあり、委員会として対応したことが報告された。浮山会長から第 62 回学術集会で日本専門医機構共通講習プログラムを一つ、日本専門医機構外科領域講習プログラムを 3 つ開催することが報告された。

専門医認定委員会について、石丸専門医制度庶務委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・11 月 17 日実施された専門医筆記試験の結果について報告された。
- ・専門医・指導医申請審査の結果について報告された。
- ・新専門医制度について外科総論 e-learning スライドの作成を行ったことが報告された。

石丸専門制度庶務委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・専門医/指導医更新における不合格者の更新猶予について現状と問題点が報告され、下記の提案がなされ、承認された。
 - 1.業績不足によるものは2年まで猶予を認めることとし、3年以降は失効として新規申請を指示する。
 - 2.専門医制度施行細則を改訂して記載する。
- ・専門医/指導医の新規・更新申請や専門医試験申し込みについて質問内容が似ている問い合わせが多いため、FAQを作成し、HPに掲載することが承認された。
- ・専門医新規申請、指導医新規申請での麻酔種別について委員会としての対応について確認があり、承認された。
- ・新専門医制度開始へ向けた NCD のロジック改変について報告され、費用 200 万円が承認された。2026 年に間に合わなければ減額を交渉する。また、小児外科の術式と認められるか、医籍番号と取得時期がずれている人の対応はどうするかについて確認することになった。
- ・2024 年 10 月 23 日に開催された第 3 回理事会で専門医認定委員会に寄せられたコメントに対する審議結果が報告された。

(4) 機関誌委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・第 60 巻の掲載論文、現状論文 13 編、症例報告 36 編を対象に優秀論文賞の二次審査を行っており、2 月中に原著と症例報告それぞれから受賞論文を決定する予定であることが報告された。
- ・投稿論文および査読状況について報告された。
- ・数年前から学術集会・秋季シンポジウムでの特別講演や教育講演などの中から、会員にとって有用と思われる内容について、総説執筆の依頼をしていることが報告され、現在、PSJM2024 から、名古屋市立大学大学院医学研究科小児泌尿器科学分野の林祐太郎先生に「気膀胱手術（膀胱尿管逆流・巨大尿管）」の総説の執筆を依頼していることが報告された。
- ・依頼原稿について、一般投稿論文と同様に「掲載料として一律 10,000 円、刷り上り 4 頁（1 頁およそ 2000 字換算）までを無料とし、超過分は 1 頁 15,000 円を著者負担。」としていたことが報告され、掲載料を学会負担とすることについて審議が求められた。著者負担金は請求しないことが承認された。執筆を依頼した方が非会員だった場合、謝金を支払うか検討することになり、次回理事会で素案を提出することになった。また、著者負担金のページ超過分の請求額を学会が補助してはどうかとの意見が寄せられ、検討することになった。
- ・50 周年記念誌をデジタル化し、J-Stage 上、もしくは学会 HP 上で閲覧できるようにしてほしいとの要望が寄せられたことが報告された。記念誌に掲載されている写真は、被写体となった方に公開の許可を得たものであることが確認されたが、肖像権のことなどを

考慮し、会員専用ページに掲載することが承認された。一冊まとめて pdf にすることが承認された。掲載場所については国際広報委員会で検討することになった。

- ・学術著作権協会と AI の支援体制についてやりとりをしていることが報告された。

(5) 国際・広報委員会（渕本担当理事）

渕本担当理事より、資料に基づき HP の改定状況が報告された。

- ・教育委員会から要望のあった本邦小児外科研修病院の日本地図形式の表示方法について、年一回または二回の更新とした場合の費用について確認することになった。掲載する内容については、現在教育委員会で作成中であることが報告された。
- ・こども家庭庁への要望について、バナーから直接フォームにリンクすると一般の方からも入力ができるしまうため、バナーから会員専用ページにリンクして、会員番号とパスワードを入力してからフォームにアクセスできるような形にする方向で検討することになった。

(6) 保険診療委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、口頭で報告された。

- ・令和 8 年度用診療報酬改定について報告された。

(7) 教育委員会（内田担当理事）

内田担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

- ・PSJM 時に開催する「小児内視鏡外科手術セミナー」運営マニュアル案が提示され、承認された。
- ・2024 年 10 月 25 日 PSJM 会期中に現地開催された第 17 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。
- ・小児内視鏡外科手術セミナー参加者の人数の推移を確認することになった。
- ・2025 年 1 月 13 日に開催された第 40 回卒後教育セミナー・第 18 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。
- ・2025 年 PSJM 会期中に第 19 回小児内視鏡外科手術セミナーを開催する予定であることが報告された。
- ・2026 年 2 月 1 日（日）に第 41 回卒後教育セミナー・第 20 回小児内視鏡外科手術セミナーを開催する予定であることが報告された。
- ・卒後教育セミナーはオンデマンド配信を希望する声も多いので、教育委員会としては、行く行くは e ラーニングの形にして専門医取得の必須条件としていきたいと考えていることが報告された。これを受けて、総合調整委員会で今後の課題として、検討していくこととなった。
- ・第 3 回サマースクールを 2025 年 8 月 30 日（土）名古屋大学でドライボックスシミュレーターを用いて開催する予定であることが報告された。第 2 回サマースクールを踏襲し、3 月に日本小児外科学会登録各施設と各医育機関に案内を送付し、4 月いっぱい募集を行うことが報告された。2024 年秋季シンポジウムで望月委員長が第 1 回、第 2 回のサマースクールのまとめをポスター発表したことが報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・データ回収事業の進捗状況について報告された。
- ・2000 年以降の登録データについてはほぼエクセルにまとめられていることが報告された。まとめられたデータは悪性腫瘍委員会フォルダで保存することが確認された。
- ・2030 年度に保存期間が 30 年過ぎたものは、溶解ないし消却する予定であることが報告された。

(9) 学術・先進医療検討委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・東京慈恵会医科大学小児外科大橋伸介先生より審議依頼のあった「小児ボタン形・コイン形電池誤飲事故実態調査」についてについて、学術・先進医療検討委員会として承認されたことが報告され、承認された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・「NCD 前向き研究「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性および安全性評価」研究計画変更について」報告され、委員会としては承認するが、さらに修正を要するとの審議結果が出たことが報告された。NCD 側からは前向きと後ろ向きのハイブリッドとすることが可能と言われていることが報告された。学会として承認し、社員総会で、オーサーシップを明確にした上で NCD の改修があることを委員会から報告することとなった。
- ・第 10 回メール審議で承認された「先天性胆道拡張症における成人・小児症例間での胆道再建法の検討」について報告された。
- ・PSJM での発表が見送られた NCD 研究「22_3_先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術新規導入へのハードル-胆道拡張症手術の NCD-P データ解析による腹腔鏡手術導入の指標と導入後の治療成績の推移についての検討-」について、第 17 回メール審議で承認後、申請者から PAPS2025 に抄録を提出したと報告があったことが報告された。
- ・2022 年に採択された NCD 利用研究「21：新生児手術における手術部位感染症の発生因子と予後に与える影響の検討」の修正申請が、第 18 回メール審議で承認されたことを申請者に報告したことが報告された。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2023 年度 門田班研究のアンケート調査について好沢委員長が論文発表予定であることが報告された。

- ・2025年度のPALS講習会開催予定について報告され、承認された。
- ・外科系小児救急患者受け入れ状況のアンケートを実施し、2025年1月8日現在、210施設中194施設から回答されたことが報告された。
- ・DMAT隊員を有する小児外科医に対するアンケートについて1909名中386名の回答で終了したことが報告された。
- ・小児の外傷性脾損傷に関するアンケートの進捗状況について報告された。
- ・10月6日に2024年度小児救急連絡協議会に好沢委員長が出席し、2024年度の委員会活動実績および今後の活動予定について説明したことが報告された。
- ・第62回日本小児外科学会学術集会学会企画について報告された。
- ・門田班研究のアンケート調査終了後、DMAT隊員を有する小児外科医に対するアンケート・小児の外傷性脾損傷に関するアンケートの実施を立案中であることが報告された。
- ・外科系小児救急患者受け入れ状況のアンケートを実施中であることが報告された。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2024年12月2日にWEB会議を実施し、「外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック第2版」「移行期支援のための患者サマリー（2022年版）」使用とトランジション実態に関するアンケート調査の内容について審議したことが報告された。
前回2019年に実施したアンケート内容を基本的には踏襲して、今回の2024年1年間の状況を調査することで、5年経過による状況の変化を明らかにしたい、成人期移行への工夫や問題点などを抽出したいといった意見が寄せられ、学術・先進医療検討委員会に審議を依頼する予定であることが報告された。
- ・「外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック第2版」「移行期支援のための患者サマリー（2022年版）」使用状況についてアンケート結果について、第62回学術集会で報告することが報告された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・学会企画で働き方改革の施設間の現状の座談会を企画していることが報告された。前回は各大学の先生方に登壇していただいたので、今回は、都市部と地方部、あるいは小児病院と一般病院の先生方に登壇していただくことを検討していることが報告された。

(15) 規約委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・日本小児外科学会が収集した臨床データの取扱いに関する規定と規定内規が提示され、公表すべき内規の掲載場所が提案され報告された。

(16) 研究倫理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(17) NCD 連絡委員会（瀧本担当理事）

瀧本担当理事より、リスクカリキュレーターの見積が提示され、①37 術式合同モデルを発注して 10 年間該当施設の利用状況を見ていくことが承認された。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・小児外科診療に関連するガイドラインについての審査について報告された。
- ・小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて報告され、ガイドライン最終版が承認された。理事会での承認を受けて組版を予定していることが報告された。
- ・先天性食道閉鎖症診療ガイドラインについて進捗状況が報告された。
- ・学会 HP 掲載診療ガイドラインの更新予定が報告された。

(19) 利益相反委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・第 6 回利益相反委員会にて NCD 小児外科領域のデータを利用した後ろ向き研究申請に関する COI 審査を行ない、問題ないことが認められたことが報告された。
- ・役員などの COI 自己申告書を過去 3 年間に対応するように変更したことが報告された。
- ・役員などの COI 自己申告を 2025 年 2 月に依頼を行い、COI の申告を検証する予定であることが報告された。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（内田担当理事）

小野理事長から、事務局宛に日本小児麻酔学会事務局から安定確保医薬品リストの中にオンダンセトロンを加えてほしいとの要望が寄せられたことが報告され、医薬品・医療機器検討委員会で審議することとなった。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入副理事長）

家入副理事長より口頭で、宮野剛先生からプロクター申請があり委員会で承認されたことが報告された。

(22) 総合調整委員会（家入委員長）

家入委員長より、資料に基づき、12 月 9 日に開催された委員会について報告された。

- ・働き方改革に対する学会の取り組みについて、継続審議となったことが報告された。
- ・新専門医制度への対応について、継続審議となったことが報告された。
- ・U45WG の今後の活動方針について、継続審議となったことが報告された。U45WG の HP 開設が検討されていることが報告され、WG からの具体的な案が提示された。HP トップに U45WG バナーをおいて、会員番号とパスワードでログインしてからアクセスできる仕様にするのが承認された。U45WG の働き方改革の草案が提示され、著者名はグループ名のみとしていることが報告された。
- ・学術集会のあり方について、春季シンポジウムの外科学会での開催+秋の小児外科学会総会の案はメリットが大きいので学会としては進めていきたい方向性だが、切り替え時点

での主催者のデメリットや、地方開催の機会減少など細かい問題点が想定されるため、次期理事会メンバーで具体的な方策について考えていくこととなり、継続審議となったことが報告された。

- ・小児外科専門医の適正配置について、継続審議となったことが報告された。
- ・小児外科関連研究会の今後のあり方について、研究会の統合に関するアンケート結果については次の理事会で審議されることとなり、継続審議となったことが報告された。
- ・海外での研修システム、海外からの研修の受け入れについて、継続審議となったことが報告された。
- ・小児外科学会学術集会において外科専門医の外科領域講習の開催が少ないとの問い合わせがあり、講習の形態に関しては会長マターであるが、理事会で最低限度のラインを作成する方向性が確認されたことが報告された。
- ・NCD 連絡委員会より、2025 年の Audit の運用についての確認があり、2025 年は現行通りの運用であり、Audit アドホック委員会での運用は 2026 年以降となるが確認されたことが報告された。

(23) 日本外科学会理事会（田尻前々理事長）

田尻前々理事長より、口頭で報告された。

- ・サージカルウィークについて、小児外科学会・消化器外科学会は前向きだが、あまり前進していないことが報告された。

(24) 四者協関連（小野理事長）

小野理事長より、今回特に報告がない旨が述べられた。

(25) 選挙管理委員会（照井選挙管理委員長）

照井選挙管理委員長より、資料に基づき、報告された。

- ・評議員選挙結果について報告された。
- ・2024 年 11 月 7 日に開催された第 2 回評議員選挙管理委員会、12 月 11 日に開催された第 3 回評議員選挙委員会について報告された。また、選挙管理委員会において指摘された評議員選挙システムの問題点について報告された。
- ・2025 年 1 月 20 日に開催された第 1 回役員選挙管理委員会について報告された。
- ・2025 年度役員選挙のスケジュールが報告された。
- ・役員選挙に関する内規が確認された。

8) 他学会からの委嘱評議員に関する理事会内規について（小野理事長）

小野理事長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・他学会からの委嘱評議員に関する理事会内規「4.日本小児麻酔学会からの委嘱評議員（任期 3 年）に関しては、以下のように選任する。」と定められているが、現在の評議員任期に併せて 任期 2 年 とすることについて審議が求められ、承認された。

9) 読売新聞_2022 年 7 月に公表された「ハラスメント調査」について（小野理事長）

小野理事長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2024年11月29日付で読売新聞から、ワークライフバランス検討委員会が実施したハラスメント調査に関する調査結果や資料の提供依頼があった。また、小野理事長への取材申し込みもあったことが報告された。先方からのメールによると、当時、ワークライフバランス検討委員会委員長だった東間未来先生にも取材申し込みをしているとのことだったので、ワークライフバランス検討委員会から東間先生に確認することとなった。また、取材については、まずは紙ベースで回答することとして、質問内容を送るよう先方に連絡することになった。

1. 報告事項

1) 理事長報告（小野理事長）

- (1) 12月3日開催の外科サブスペシャルティ領域連絡協議会議事録（案）について、専門医制度委員会と併せて報告された。
- (2) 12月10日開催のNCD理事会・社員総会議事録（案）について報告された。
- (3) 日本小児栄養消化器肝臓学会からの通信文「理事長就任の挨拶」を受領した。
- (4) 日本難病学専門医財団からの寄贈本「難病研究財団ニュース No.61」を受領した。
- (5) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 11月号」を受領した。
- (6) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.414」を受領した。
- (7) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.206・207」を受領した。
- (8) 日本胆道閉鎖症研究会からの寄贈本「胆道閉鎖症診療ガイドライン 第2版」を受領した。
- (9) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.415」を受領した。
- (10) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.208」を受領した。
- (11) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 1月号」を受領した。
- (12) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 1月号」を受領した。
- (13) 日本小児科医会からの寄贈本「令和5年度#8000 情報収集分析事業報告書【全体版】」を受領した。
- (14) 神奈川県医師会構からの寄贈本「神奈川医学会雑誌」を受領した。
- (15) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.416」を受領した。

2) その他の報告

- (1) 家入副理事長より、遠隔手術に関する専門領域間合意形成のためのデルファイ・プロセスについてのアンケートについて報告された。

2) 次回定例理事会日程の確認（小野理事長）

次回定例理事会は令和7年3月18日(火) 11:00～16:00 大阪大学東京オフィスで開催する予定であることが確認された。

理事長

理 事

理 事
